特色 3　学びを広げる・つなげる・深める ための紙面・内容の工夫

1　3分野の学びを関連させ，社会をより深く理解することができる内容・構成

社会科学習のゴールである公民を見据え，現代社会につながる歴史的事象や課題の扱いを充実させました。カリキュラム・マネジメントの観点から，教科「社会科」として生徒の資質・能力の育成に取り組めるよう工夫しました。

SDGsでつながる3分野の学び

good

社会科の目標である，公民的資質の育成を見据えて，地理・歴史・公民の3分野でSDGs(持続可能な開発目標)の視点を取り上げました。歴史学習の最後に位置づけた，現在と未来について考察・構想し表現する活動において，SDGsの17の目標を示すことで，歴史で学んだことを現代の視点から捉えなおして学習を深めるとともに，公民の学習へと接続していけるよう工夫しました。ここでは現代社会の課題の例として，自然災害の記録の継承や，地域の復興に取り組む人たちを取り上げました。

▲ 歴史 p.289-291

歴史的な視点で，過去の長期間における人口の変化を扱い，その中で，明治時代の移民政策を取り上げています。

関東大震災による被害や，そこからの復興を扱い，その中で，行政の役割や，人物の働きを取り上げています。

▲ 歴史 p.202-203

▲ 歴史 p.238

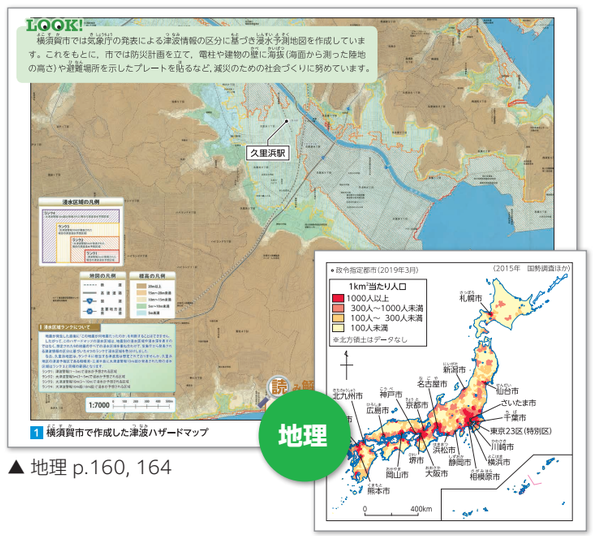
◀ 歴史 p.280-281

現代社会の課題でつながる3分野の学び

公民としての資質・能力の育成の観点から，現代社会の諸課題についての取り扱いを充実させました。たとえば歴史のp.202～203では明治時代の移民政策から「人口・移民」を，p.238では関東大震災から「震災・復興」を取り上げ，現代史(p.276～283)の学習へとつなげています。これらの内容について，「地理」では世界や日本の人口分布の偏りや，地震のメカニズムや発生地の分布を取り上げ，「公民」では人口減少や少子高齢化の問題や，自然災害と資源・エネルギーとの関わりを取り上げています。「地理」・「公民」での学びと合わせて，生徒が，自分たちが生きる社会について多面的・多角的に考察し，深く理解することができます。

地理 p.Ⅳ ▶

▲ 公民 p.227-234



▲ 地理 p.160, 164

▲ 公民 p.174, 218